

G E K I D A N K A I T A I S H A

News Letter

Vol.1
March 2001

2001年3月6日発行(不定期発行)
発行人/清水信臣
編集人/秦 岳志
Photo/宮内 勝
Design/STUDIO TERRY
発行/劇団解体社
東京都文京区湯島2-4-8 五十嵐ビル1F
Tel/Fax:03-5802-5387
e-mail:gekidan@kaitaisha.com
http://www.kaitaisha.com/

GEKIDAN KAITAISHA
劇団解体社



●1999年4月 バイバイ-退化の世紀へ-

「バイバイ/未開へ」 ワールドプレミア上演決定!

6月中旬 都内某所にて

お待ちせしました。今年6月中旬 都内某所(3月中旬発表予定)にて、新作「バイバイ/未開へ」の公演を行います。約1年ぶりの国内新作公演。今年秋のヨーロッパ・アメリカツアーを前に、これまで解体社がこだわってきた「身体演劇」を更に一歩進め、新たな出発点となる作品です。

客演として、元SCOTの看板役者、笹田宇一郎さん、モダンダンサーの田野日出子さん、そしてシドニーからやってきたパフォーマー、アダム・プロノフスキを招き、更にパワーアップ。解体社の新たな船出にぜひお立ち会い下さい!

いかなる神にも見られていない時のような、未開へ

「人間身体」は根こそぎ監禁されています。紋切りと類型で溢れかえったメディアイメージの監獄に。あるいは、異なるものへの敵意と他なるものへの恐怖に満たされたナショナリズムの独房に——例外なく私もまたこれら獄のただ中にいるのです。

「人間身体」はそれ自身、なんのために存在しどこで死ぬのかを確かに知っているように思われます。なによりもそれを、つまりこの倫理の遂行を妨げている暴力装置の発動に抵抗したい。

で、いま、緊急に舞台化したい事柄が二つほどあります。

ひとつは「戦争身体」と名づけた場面ですが、圧力、苦痛、汗、重さ、速度、張力など、直接的で物質的な身体諸力の絡み合いとその限界を通して、いわゆる「コミュニケーション」とよばれているものの再定義を試みたい。もうひとつは「バイオ・アポカリプス」とよんでいるもので、DNAレベルにおける選別と排除の問題系を扱っています。詳細はここでは語りませんが、これらをベースに、あのいつもの独異で挑発的な解体社の身体表象の諸効果が新たに機能する場所を、すなわち「未開」を描き出せればと思っています。

ここでいう「未開」とは、「人間身体」としての未来という意味です。

演出 清水信臣

2月~5月 稽古を一般に公開

昨年7月に行った国際コラボレーション「Journey to Con-Fusion2」に引き続き、6月の「バイバイ/未開へ」公演に向けての稽古を一般に公開します。基本的に毎週木・土曜日の夜7時~を公開時間とします。劇団員は稽古中あまりお構いできませんが、ぜひお気軽に見学にいらして下さい。いらっしゃる際には、日程・会場が変更になる場合もありますので出来るだけ事前に電話かe-mailにてお問い合わせ下さい。

劇団解体社 公開稽古

- 日程=2001年2月~5月 毎週木・土曜日 夜7時より
- 会場=FreeSpaceキャンパス(文京区湯島2-4-8五十嵐ビルB1F/Tel/Fax:03-5802-5395)

毎月末にワーク・イン・プログレス上演!

6月に上演する「バイバイ/未開へ」を前に、毎月月末に途中経過の発表としてワーク・イン・プログレス上演を行います。終了後は恒例の「Bar Little」がオープン。お時間のある方は残っていただき、ドリンクを飲みながらご意見を伺えればと思います。

- 日時=2001年3月31日(土)、4月28日(土)、5月26日(土) 夜6時受付開始 7時15分開場 7時30分開演
- 会場=FreeSpaceキャンパス(文京区湯島2-4-8五十嵐ビルB1F/Tel/Fax:03-5802-5395)
- 料金=1500円(当日券のみ/ワンドリンク券付)

研修生アダム・プロノフスキと解体社との交流の途中報告会

Immersion into KAITAISHA—解体社での研究—

現在、シドニーから解体社に研修に来ているパフォーマー、アダム・プロノフスキさん(裏面トピック参照)との日々の稽古の報告会を開催します。「バイバイ/未開へ」の一部シーンのショウイングや、アダムと解体社メンバーのトーク&質疑応答の後、簡単な料理とオーストラリアワインをご用意してのパーティーとなります。入場無料です!お待ちしております。

- 日時=2001年4月26日(木) 夜7時より
- 会場=オーストラリア大使館(地下鉄麻布十番駅A2出口より徒歩2分)
- 申込み=下記宛先まで、住所/氏名/電話番号/参加人数をご連絡下さい。

オーストラリア大使館文化部
e-mail:cultural_events@australia.or.jp
Fax:03-5232-4114



●2000年4月 De-Control V 「many many」

「解体! 解体社」展 開催!

解体社のこれまでの活動全部見せます

6月の「バイバイ/未開へ」公演期間中、解体社のこれまでの活動を総括する「解体! 解体社」展を行います。全公演の舞台写真やコメント・批評記事、当時の演出ノートや小道具、衣裳などなど、展示できるものは全てお見せします! 同時に公演収録ビデオを上映しながらのトークショーなども企画中です。更に! この内容を発展させ、「解体社全仕事」的な書籍発行の企画も立ち上がりました。ご期待ください!

只今、
申込み受付中!

劇団解体社ワークショップ

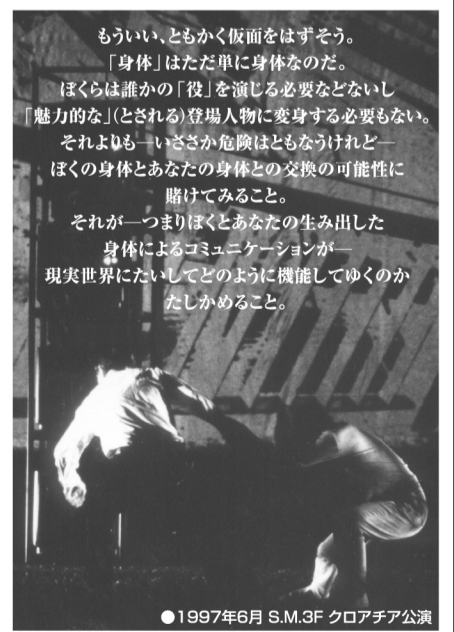
"Last Body" Lab.スタート!

「解体社の稽古を(ちょっと勇気がいるけど)一度体験したい!」そんな声にお応えして、以前から要望が多かった、いわゆる「ワークショップ」をスタート! 解体社がこの10年間に開発したアクションのピース、ムーブメントのスキル、新奇なフォルムの数々を惜しみなく公開します。教えます。売ります。ともに動き、語らい、ゆたかな春を過ごすことができればと思います。

第一期 情報の差違から物質的力へ

《単独系》	《群れ系》
3/27 亡骸・形骸	4/24 対・圧力
4/3 神経・舞踏性	5/1 分散/捕囚
4/10 皮膚-境界	5/8 告白を切りぎざめ!
4/17 幻影肢態	5/15 戦争身体

- 日時=2001年3月27日より毎週火曜日 夜7時~10時
- 会場=FreeSpaceキャンパス
- 参加費=全8回 20,000円/1回のみ 3,000円



●1997年6月 S.M.3F クロアチア公演

もういい、ともかく仮面をはずそう。
「身体」はただ単に身体なのだ。
ほくらは誰かの「役」を演じる必要などないし
「魅力的な」とされる登場人物に変身する必要もない。
それよりも—いささか危険はともなうけれど—
ほくの身体とあなたの身体との交換の可能性に
賭けてみることに。
それが—つまりほくどあなたの生み出した
身体によるコミュニケーションが—
現実世界にたいしてどのように機能してゆくのか
たしかめることに。

2002年3月 富山公演決定!

2002年3月、富山県民小劇場「オルビス」にて公演を行います。北陸のみなさんとの新たな出会いを楽しみにしています。東京の方々も、北陸旅行のついでにいかがですか? 劇団解体社では、今後も地方公演を積極的に行っていきたいと考えています。ぜひ地方のみなさん、解体社を呼んでください!



●2000年7月 Journey to Con-Fusion 2

2000年活動報告

香港/ベルリン公演

香港の謎の演劇人ダニー・ユンに招待され、昨年4月下旬に香港「Journey 2000 Festival」、8月にベルリン「Festival of Vision 2000」に参加してきました。少人数でのコンパクトな旅公演でしたが、アジアやヨーロッパ諸都市のアーティスト達との交流の機会が多く設けられ、大変盛りだぶりのツアーでした。

香港では毎日グルメ三昧。演出の清水は海鮮しゃぶしゃぶが食べられなかったのが心残りですが、香港ツアーの報告をホームページで公開しています。初めて明かされるメンバーの日常生活秘話や、公演の裏事情が満載です。ぜひどうぞ。

De-Control V-VII

昨年前半は3ヶ月にわたり「De-Control」シリーズの新作を毎月発表しました。大変ハードでしたが(途中で香港ツアーなども入りまし)内容・上演形態共に新しい試みを実践できた貴重な公演でした。特に5月に「シアターセミナー」と題し、観客の方々との対話に重点を置いた「De-Control VI-自由の虜」では、大変活発な意見や質問が交わされ、予想以上の反響に驚かされました。今年の公開稽古やワークショップなどの企画も、この体験があったからこそと言えるでしょう。新作「バイバイ/未開へ」の上演中も、できる限り質疑応答の機会を設ける予定です。なお、De-Controlシリーズはこれで一度幕を閉じ、来年からは「Neuro Systemシリーズ」がスタートします。

国際異文化コラボレーションイベント

Journey to Con-Fusion 2

昨年7月にはオーストラリア・メルボルンから過激なパフォーマンス・カンパニー「NYID」を呼んで、森下スタジオにて約10日間のコラボレーションイベントを行いました。

連日通ってくださる見学の方が大勢いらっしゃり、大変励まされました。

最終日のワーク・イン・プログレス上演は、二人の演出家をかかえるこのプロジェクトの困難さが奇跡のように作品に昇華していたと自負しています。

既に来年オーストラリアで3回目のコラボレーションを計画。また、これまでの成果をまとめた研究書が来年にも(とりあえず英語版ですが)出版される予定です。今後の展開にご期待ください。

研修生 from Australia アダム・ブロンフスキ

AustraliaのAdam Broinowski(ブロンフスキ)です。南オーストラリアのアデレード1971年生まれ、29才です。1984年日本初めて、お母さんと一緒に来て3年間国際学校に行きました。21才、大学とちう、日本の静岡大学留学生で来て偶然に能の勉強始めました。偶然というのは本当に法律の勉強をしに来るべきだったけど、英語でも法律わからなかったから、能先生がいて、能のれんしゅうはじめ、演劇世界に入りました。1995年、日本また戻って来て、「Hell弁当」っていうドキュメンタリーを撮影しにきて、そして今2001年に劇団解体社を研究する目的



が有って、国際交流基金で6ヶ月日本にいます。このあいだ、解体社のメルボルン公演をみたとき、セッションを感じました。実験的、現代的、肉体的、政治的、こういんな劇に興味あります。解体社さんたちと会って、稽古をしているうちに、一緒に公演しようっていう話しがでて、うれしくて、「もちろん、やりましよう」とへんじました。みなさんと楽しみががんばりましよう。(原文ママ)

先月から一緒に稽古をしているアダムさんは、元体操の選手。吊輪や鞍馬など、お手の物だとか。稽古中も逆立ちをひょいとやってくれたり、ひょうきんな一面も。日本の新興宗教にも興味があり、その研究も進めています。何万人もを虜にする教主のパフォーマンスを一種の演劇的表現として捉える論文を準備中だとか。彼の演出したドキュメンタリー「Hell弁当」は日本のアンガラカルチャーを取材した傑作。ちょっと変わった、ヘンなガイジンさんです。

●アダムの英語教室のご案内

劇団解体社では、アダムを講師に、身体表現の用語を中心に学ぶ英語教室を不定期に開催しています。参加希望の方は劇団までお気軽にご連絡下さい。(参加費:1回 1500円~)

ヨーロッパ・アメリカツアー 2001 約3ヶ月にわたるワールド・ツアー

今年秋、解体社は「バイバイ/未開へ」を携えて、ヨーロッパ12都市とアメリカ・ニューヨークをめぐるツアーに出かけます。

特に今回は、以前は別の用途で使用されていた建物を改造した劇場が目立ちます。ハンブルグのKampnagelは港のクレーン基地。フランクフルトのMousonturmは元石鹸工場。デュッセルドルフのTanzhausとグラスゴーのTramwayはトラムの修理工場・駅。マンチェスターのGreen Roomは駅の倉庫。カーディフのChapter Arts Centreは学校、などなど。

日本では見つけるのが大変難しい、雰囲気ある劇空間での公演が今から楽しみです。ツアー中はできる限り、現地からの報告をweb上に掲載するつもりです。



●2000年7月 Journey to Con-Fusion 2

●公演予定地(2001年2月現在決定しているもの)

9月~	10月~	11月~
●ドイツ ハンブルグ Kampnagel フランクフルト Mousonturm デュッセルドルフ Tanzhaus	●イギリス グラスゴー Tramway ロンドン ICA マンチェスター Green Room ブライトン Gardner Arts Centre	●フランス ブレコン Theatre Brecon カーディフ Chapter Arts Centre St.Donats St.Donats Arts Centre Aberystwyth Aberystwyth Arts Centre
●アメリカ ニューヨーク Japan Society		

※その他、ベルリン、コペンハーゲン、ジュネーブ、トロント、オクスフォード、ウィーン、ペオグラード、ブタペスト...etc.と現在交渉中。

解体社VIDEOシアター De-Controlシリーズ新発売!

ご好評いただいている解体社VIDEOシアターのシリーズ。新たにアトリエ・パフォーマンスシリーズ「De-Control IV,V」「De-Control VI,VII」の2タイトルをリリースしました。お申込み希望の方は、劇団事務所までご連絡下さい。こちらから申込み用紙をお送りします。

●'89-'94	野外移動演劇やTHE DOGシリーズなど(30分)
●Tourdays in Croatia	劇場が騒然となったTOKYO GHETTOクローアチア・ツアーの貴重な映像(107分)
●TOKYO GHETTO/ハード・コア	96年12月、東京で上演されたシリーズ最終編(100分)
●零カテゴリーI,II	97年東京芸術劇場、98年アーツシアターでの公演より(86分)
●De-Control I,II	「群れ/独房アクト」「NEURO系」(80分)
●バイバイ-退化の世紀へ-	戦争と身体史をテーマに、身体と権力をめぐる諸作品を集大成(80分)
●De-Control IV,V	「イコノクラステック・アリーナ」「many many」(100分)
●De-Control VI,VII	「シアターセミナー 自由の虜」「続S.M.3F.」(120分)

■各3300円(送料別/S-VHSの場合は+200円)

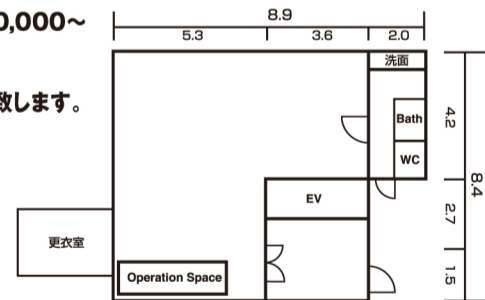
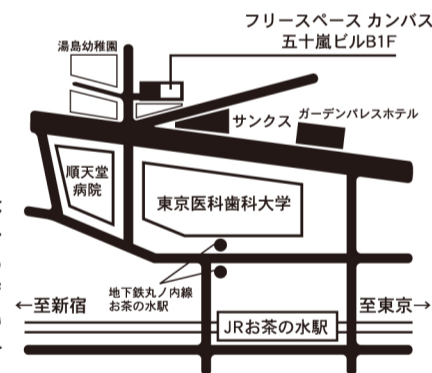
FreeSpaceキャンバス 好評レンタル中!

お茶の水駅から徒歩5分!新開通の12号線改め大江戸線も通る本郷三丁目駅から徒歩7分!の好立地です。演劇やダンスの稽古に、ワークショップ会場に、オフラインミーティングの会場に、そしてもちろん上演会場にぜひご利用下さい。石垣島出身シェフの特別料理でのパーティーは毎回大変好評です。(これを目当てに来る人もいるほど...) 安い!うまい!使いやすい!と三拍子そろった FreeSpaceキャンバスをよろしくお願ひします。

- 公演時使用料金
仕込み・ゲネプロ=¥20,000~/本番=¥40,000~
- レッスン時(公演以外)使用料金
¥1,500/h~
- ※その他パーティー等、ご要望に応じてお見積り致します。

FreeSpaceキャンバス

東京都湯島2-4-8 五十嵐ビル地下
Tel/Fax:03-5802-5395
e-mail:canvas@kaitaisha.com
http://www.kaitaisha.com/canvas.html



《編集後記》

●バスジャック、幼児虐待、ドメスティックバイオレンス...。ここ数年世間を騒がせている事件をみるにつけ、1995年に発表した「TOKYO GHETTO」を思い出します。当時、まだこれらの問題は表に出てきていませんでしたし、上演してもそれを現実社会に対応した舞台としてはなく、単によく構成された、美しい舞台としてしか見られなかった記憶があります。男が女を叩き続けるという、クローアチアでは劇場全体が騒然となった衝撃的なシーンです。しかし、昨年あたりから、観に来るお客さんの方々の目が変わってきたのを感じています。時代は確実に解体社に追いついてきている...という、ずいぶんとかっこつけすぎですが、私たちのこれまでの活動の方向性は間違っていないと感じる今日このごろです。

●今年も解体社にとって節目の年になりそうです。企画されている様々な試みの中の最初の一つがこのニュースレターの発行でした。いかがでしょうか? 長期ツアーもある中でどこまで続けていけるか分かりませんが、ぜひみなさんのご意見ご感想をお寄せください。

●ホームページも constants に更新作業を進めています。ぜひ毎週チェックしに来て下さい!

●劇団解体社では制作スタッフを募集しています。チラシ配りや発送作業、電話番号、ホームページ更新作業、翻訳、買い出しなどなど、バラエティに富んだ仕事の数々があるあなたの出番を待っています。ご興味のある方は劇団までご一報下さい。(はた)